

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年4月11日

所属・職名	人間社会学部・教授	氏名	吉竹弘行
研究課題	疼痛緩和に関する代替療法に関する研究		
研究キーワード	疼痛緩和, 統合医療, キューバ, プラセボ効果	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>少子高齢化社会での高齢者医療に対する社会負担の効果的な抑制は重要な社会課題となっている。高齢者の外来診療において上位を占める筋骨格系及び結合組織の疾患では、痛みを愁訴として訴えるものが多い。痛みは急性痛と慢性痛に大別され、急性痛は原因疾患の一症状として発生メカニズムの解明が進んだ一方、慢性痛は侵害刺激の入力がなくても発生することが明らかになってきたものの、発生メカニズムは明らかになっていない。わが国で、この急性痛と慢性痛を鑑別することなく行われてきた不適切な痛み治療によって、患者・医療・社会のすべてに大きな損失を与えてきたとの指摘がある。</p> <p>代替医療については過去、その医療的效果について否定的な見解も述べられてきたが、比較的軽い症状や慢性病に関してはプラセボ効果も含めて患者からは一定の満足度を得ている。また東日本大震災で見られた津波、原発事故、医療過疎、ライフラインの切断や熊本地震での災害関連死の増加等に対応する「震災時のエコ治療」としての評価も得てきており、代替医療と近代西洋医学の利点を活用する統合医療は新しい医療モデルとして期待されてきている。</p> <p>本研究では、慢性痛等に対するプラセボ効果も含む統合医療の効果について整理を試みることで、医療費削減の可能性を研究した。また研究課程で、プライマリ・ヘルス・ケアに重点をおき、統合医療への対応も図ることで先進国並みの乳児死亡率の低さや平均寿命の長さを誇り、国連やWHOなどから高い評価を受ける医療政策を展開しているキューバについて行った現地調査に関する報告を行った。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>一般社団法人日本応用老年学会誌に論文「応用老年学における統合医療の価値に関する考察」を投稿（査読申請中）。</p> <p>3. 主な経費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般社団法人日本統合医療学会とキューバ生体エネルギー・自然療法学会の共催の「日玖シンポジウム」（キューバ国、ハバナ・マタンサス）への参加費用</li> <li>・ 慢性疼痛箇所の把握・確認のための骨格モデル購入費用</li> </ul> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし</p> <p style="text-align: right;">（本文は1ページ以内にまとめること）</p>			